

由良ドック 株式会社



和歌山県(日高郡由良町)

私たちは、安全、品質、スピードを追求した
船舶修理のプロフェッショナルです。



代表取締役社長
神原 三千夫さん
(令和6年10月取材)

(本社)

◇御社の歴史を教えてください

当社は、1973年に三井造船株式会社由良工場として創業し、1982年に液化天然ガス(LNG)運搬船の修繕工事を開始しました。現在は、常石造船株式会社(本社-広島県)の100%子会社として船舶の修繕にかかるありとあらゆる業務を請け負っています。当社は様々な大型船舶を扱いますが、その中でも特にLNG運搬船の修繕に注力しています。船舶の修繕は、船体の塗装工事やエンジン、船上設備のメンテナンス、旅客フェリーの客室や船員の居住スペースの内装工事・外装工事など幅広い技術が必要です。新造船に比べてると溶接の仕事は少ないですが、その分船のありとあらゆる艀装品に触れたり社内設備の作製などで加工も行っております。

世界の海上荷動き量は年々増加しており、それを輸送する貨物船のメンテナンス需要もまた増加しています。同時に修繕可能な船舶の数を増やすため、人員確保が非常に重要であると考えています。



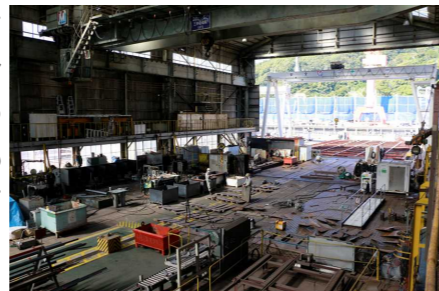
◇「ものづくり」へのこだわりは？

LNG運搬船の修繕ができる場所は、日本国内に数箇所しかありません。そのため、当社は、LNG運搬船の修繕のノウハウや設備も整っており、当社でなければできない修繕があります。社内には、幅広い年齢層の人材が在籍しており、技術を持ったスペシャリスト集団です。そのため、若年層へ技術伝承が重要だと考えています。特に内燃機関(エンジン)に関しては、組み方を間違えると船の運航に支障をきたす可能性があるため、しっかり伝承しなければいけません。

◇従業員の人材育成は？

当社の研修制度は、常石グループの新入社員研修や管理職研修の他、多種多様な研修が毎月実施されています。現地まで行くことが難しい場合には、オンラインによる講習なども実施しています。修繕に関する技能、技術的な内容に関しましては、基礎知識が必要なものの、机上ではできない内容のためOJTで実物に触れつつ技術伝承を基本としています。

また、大型船舶は日本のありとあらゆる工業技術の粋を集めてできていますので、当社の従業員の中には、前職で自動車エンジンを整備していた人や住宅・工場の電気工事をしてきた人など、多様な職業経験がある中途採用者にも活躍してもらっています。



◇ポリテクセンターから採用した感想は？

現場で働くには各種の資格があることが前提になります。ポリテクセンター修了生は、入社時点でアーク溶接やガス切断などの各種資格を取得しているので、非常に重宝しています。今回採用した田中さんは船乗りをしていた経験があり、元々船に興味を持っていたのかと思います。そのため、「好きこそ物の上手なれ」のように、熱心に技術を学んでいます。また、組織の中で働くという意識も持っており、鉄工部門の仕事も楽しんで取り組んでもらえているようです。

今後も、田中さんのように若くて元気のある人材を採用していきたいと思います。ポリテクセンターに通われる方は、ものづくりに興味を持っているので、当社の採用したい人物像にも合致します。溶接やガス切断などの技術も学んでいるため、即戦力として働いてもらっています。こうした人材をどんどん輩出してもらえるとありがたいです。

溶接加工科の修了生が活躍中！

令和5年11月修了 田中 翔太さん(23歳)

◇祖父や父親を見て

ポリテクセンターに入る前はタンカーやマグロ漁船、陸上自衛隊などで働いていましたが、祖父や父親が鉄工所で溶接していて同じように手に職を付けたいと思いました。そこで、ハローワークに相談したところ、職業訓練窓口でポリテクセンターの溶接加工科を教えてくださいました。



◇手に職を付けられると実感

ポリテクセンターで行っている職業訓練説明会に参加するまでは、祖父から教えてもらった「溶接の火を見ると目を焼くから気を付けろ」の意味がわからず、目で見ずに溶接するのかと疑問に思っていました。しかし、職業訓練説明会で、実際の訓練の様子を見学することで、光を遮るお面があることを知り、溶接のイメージが付くようになりました。その後、溶接加工科の指導員から、溶接について20分程度説明を聞いて、手に職を付けることができると感じたため、応募を決めました。



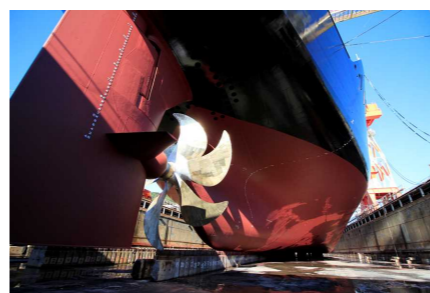
◇ポリテクで学んだこと・取得した資格が役立っています

ポリテクセンターでは、座学で基礎的な知識を学び、実習で各種の溶接作業方法を実践できました。また、指導員の方々の説明や訓練は、わかりやすく実務に近い内容を教えてもらいました。特に、印象に残っている訓練は、ガス切断の訓練です。着火ライターの使い方、鉄板の溶断、火力調整などの方法を実践でき仕事のイメージが湧きました。

現在の仕事は、鉄工部門にて、ガス切断器による船体外板の切断、半自動溶接による替えの鉄板の仮付けなどポリテクセンターで学んだことが役立っています。

個人的に難しかった図面の読み方や板金の展開計算などの訓練は、指導員や周りの受講生に助けをもらい、半年間の訓練で習得できました。また、ポリテクセンターでは、フォークリフトやガス溶接などの実用的な作業資格を取得できました。これらの資格は、日常業務を行う上で必要な資格であるため、役立っています。

ポリテクセンターの訓練を受講したことで、このような良い職場に就職できたと思っています。受講を悩まれている方は、ぜひチャレンジしてみてください。



現在担当しているお仕事

由良ドックは、大きい船の修繕を行っており、溶接を行う部門(溶接部門)と鋼材加工や仮付け溶接を行う部門(鉄工部門)に分かれています。その中でも私は、鉄工部門に所属しています。部門の中で担当している業務は、船体の修繕工事です。そこでは、船体外板を切断し、替えの鉄板などの付け直しをしています。私たち鉄工部門が鉄板を切断し、正しい位置に仮付け溶接を行った後は、溶接部門の人たちが本溶接をしています。私は、見習いのため、段取りや補助などの作業をしながら、仕事を覚えています。業務では、実物に触れながら、仕事を教えてもらい、部門の人たちからサポートしていただいています。